

家族介護教室より

「福元孝和先生をお迎えして」

平成九年度第二回家族介護教室がデイ・サービスセンターのホールで行われました。高齢化に伴い痴呆老人が増加しつつある現状において、今回は「老人と痴呆」「痴呆老人と接するには」のテーマで、十全第二病院福本孝和先生をお迎えして有意義な学習をすることができました。

対象者はデイ・サービスの利用者の一部、利用者の家族、地域の方々と三十九名の出席があり、痴呆の要因・経過・予防など先生のお話を自分自身、また、家族のことに思いをはせながら熱心に聞き入っておられました。また、御家族から日頃の疑問点が数多く出されました。その一部を紹介します。



質 「食物の飲み込みが悪くて痩せてしまうのですが…」



答 「嚥下するという脳の働きが侵されているため飲み込む力が弱くなっているためです。しかし、すぐ経管栄養に結び付けるのは感心しません。」



質 「お姑さんが以前はしっかりしていたのに最近頼りなく感じられるようになったのですが…」



答 「今までは親が子供を大切に育んできました。これからは選手交替して子供が親の気持ちになって老人を看護していくことが望ましいですね。」



質 「おむつが濡れていると食事をしないが替えると食べる。食事はいくらでも食べるが痴呆でしょうか？」



答 「食事は痴呆でなくても満腹中枢のサインが働かなければいくらでも食べるので介護者が加減してあげなければいけません。」

痴呆老人を家族みんなが理解協力し、長期戦で支えていかなければ介護者がアウトバイン（燃え尽き症候群）に陥ってしまいます。そのようにならないため介護者自身の健康の留意、大きな広い心を持つことが大切です。



あるレストランで一人の婦人が人目をはばかることなく痴呆老人らしい人にエプロンをつけて食事をさせていました。これこそ達人みたりと先生は感嘆したそうです。教室終了後、家族から「いいお話を聞かせていただいた」「心が楽になった」等、実りある感想が述べられました。

私たちスタッフも、もう一度痴呆に対しての認識を新たに、これからもお年寄りが少しでも安楽な生活がおくれるように、また、介護者の負担が少しでも軽くなることを願った介護教室を継続していきたいと思えます。

平成9年度後期

家族介護教室の予定

△十二月▽

一、移動と用具 二、ビデオ放映

△三月▽

一、介護者の健康管理、気分転換
二、老人食の栄養

御近所お誘い合わせ、御参加下さい。
問い合わせ先 公九六六一六四二二 有線二九一八